

2024年8月1日 【清真学園 校長室だより】 改めて考える学校の役割

7月9日、水戸ノーブルホームスタジアムに、勝者を称える、清真学園の校歌が流れました。いつにも増して美しいと感じたこの歌、この日のことは、この先もずっと心の中に留まるような気がします。そして連合チームから部を再構築し、猛練習に耐え、見事3回戦まで進出した野球部の皆さんの健闘には、心からの拍手を送ります。

一般論として言えば、学校教育における部活動の唯一絶対の本来的意義は、活動を通じて自らの人間性を鍛え上げることにあります。野球部に限らず、各部活動に励む生徒達は、日々懸命に努力を重ねながら、技術のみならず、結果的にその先の長い人生を左右する自らの人間性の向上に、真剣に取り組んでいます。そして、その部活動に多くの時間とエネルギーを割くことは、その生徒自身の主体的選択によるものです。

清真の生徒達に限らず、中高生には無限の可能性が 있습니다。現在は学びの形も多様化がすすみ、積極的に通信制高校等で学ぶことを選択する生徒も少なくありません。しかし、たとえ学びの形がどうであっても、学校が本来果たすべき役割として、関心や適性の異なる数多くの生徒に対して、その事を通して成長が期待できる様々な機会を提供することは、とりわけ大切であると考えています。

それ故本校では、今年度18年目を迎えたスーパーサイエンスハイスクール事業に基づくゼミ活動や、生徒の自主的運営に基づく各種学校行事、海外研修、大学等高等教育機関での研修、様々なコンクールへの参加、多様な講師による講演会など、通常の教育活動とのバランスを慎重に図りながら、様々な機会を提供することをとても大切にしています。当然ながら生徒一人ひとりの興味関心は多様であり、学ぶチャンスも多様である必要があります。以前の「校長室だより」でもお伝えしましたが、私自身も、高校1年の春の、米国の姉妹校への短期留学が人生の転換点となりました。その機会を与えてくださった母校には今でも感謝をしています。一つの機会が一人の人生を変えうることを強く意識しながら、これからも日々の教育活動に取り組んでまいります。